

時代をつなぐ（創立60周年によせて）



日本赤十字社診療放射線技師会
会長 清水 文孝

振り返りみますと、昭和28年11月15日に全日赤エックス線技師会が発会され、本年度創立60年を迎えました。本会の発会に至るには、昭和26年頃より日赤技師の横の連絡云々というのが始まりであり、本社衛生部のご指導をいただきながら数度の準備会が開催され、発会に至ったと伺っております。そして、昭和29年3月31日には全日本エックス線技師会誌が発行されました。それから60年、伝統は脈々と受け継がれ、現在では日本赤十字社診療放射線技師会と改称され発展してまいりました。

エックス線技師法が昭和26年に制定され、我々の身分が保証されるようになり、昭和43年診療放射線技師及びエックス線技師法に改称され診療放射線技師の区分が新設となり、昭和59年診療放射線技師法に改正されました。法律の内容も時事に応じて幾度となく見直されると共に学問としての位置づけも確立されたことは、言うまでもありません。しかし、時事における労苦は、諸先輩方のお話を伺うにあたり、ひとえに大変だったと感じています。そして、諸先輩方の礎があったからこそ今があり、本会が未来に繋がっているものと推察いたします。

そして、60年という区切りの年に本会の現在を担わせていただいている立場では、後輩に何が残せるか、本会の未来に何を残し、何を託せるか、それらを模索し会の活動を見つめていかねばならないと考えています。技師長という職制の名称は赤十字病院から産声を上げたといえます。そんな伝統を踏襲し、役員一同未来に繋げて行きたいと思っております。

創立50年からのこの10年は、正に変革の時代であったと思っております。業務研修会から日本赤十字放射線技師学術総会への名称変更、日本赤十字本社から東京国際フォーラムへの会場移行、東日本を襲った大震災と津波、医療機器支援体制、政権交代から更なる政権交代と、正に変革の時代であったと思われれます。そして、この時代を担っていただいた歴代の会長に敬意を表すと共に当時の役員の皆様に感謝申し上げたいと思っております。また、特にITの進歩は著しく、お金に替えがたい財産を構築していただいたことは、我々役員一同は更に未来を見据えた投資をしていかなければ、会員に対して情報は発信できないことも確信しております。より良い運営をめざし日々努力してまいり所存であり、そうあらなければならないと考え、実行してまいります。

赤十字での診療放射線技師としての残り少ない期間を、創立60年の節目に携われた幸運と、これからの本会の発展を見届けて参りたいと思っております。

天の時、地の利、人の和、すべてが揃った日本赤十字社診療放射線技師会の益々の発展を祈念し、時代を繋ぐことといたします。